

交換留学に係る特例について

A 類	B プログラム	C 特 例	D 科目別特例				H まとめ 卒研着手 審査合格の 可能性 (①~③に よる)	I 備 考
			科目	① 未修得でも卒研着手審査特例合格の可能性あり。帰国後に履修	F 単位取得サポート			
					② 遠隔による受講可	③ 留学先科目認定の可能性		
I 類	メディア情報学	3年次後学期終了時点で、実験(必修)以外の卒業研究着手条件を満たしている場合には、卒業研究着手審査を特例合格とする。		○	一部	○	○	<p><注意事項> 4年次での卒業を目指す場合</p> <p>4年次前学期も留学期間とする場合には、卒業研究(輪講)の遠隔実施が可能かどうかを(留学先での学修内容の置き換えを含む)、出発前に、配属希望研究室の教員に確認しておくこと。 また、4年次に3年次後学期の実験を履修することは、卒業研究と並行して履修することとなり、非常に負担が大きくなることが予想されるため、十分な力を身につけておくこと。</p>
	経営・社会情報学	【特例1】 3年次後学期の実験科目(必修)に類似した科目を留学先で履修し、そのレポートを提出することで実験の単位とすることを可とする。(交換留学をしながら卒業研究着手条件を満たすことが可能)ただし、実験科目の置き換えとする留学先での科目については、出発前に教員(学生支援担任及び学域教育委員)と相談すること。		○	一部	○	○	
	情報数理工学			○	一部	○	○	
	コンピュータサイエンス	【特例2】 3年次後学期の実験科目(必修)のうち、オンラインで実施可能な一部の実験については、留学先からの履修を認める。		○	一部	○	○	
	デザイン思考・データサイエンス	オンライン実施可能な実験に関しては、実験担当の教員に事前に確認すること。		○	一部	○	○	

A 類	B プログラム	C 特 例	D 科目別特例				H まとめ 卒研着手 審査合格の 可能性 (①～③に よる)	I 備 考
			科目	① 未修得でも卒研着手審査特例合格の可能性あり。帰国後に履修	F 単位取得サポート			
					② 遠隔による受講可	③ 留学先科目認定の可能性		
II類	セキュリティ情報学		プログラミング言語実験	○		○	○	②について現在オンライン対応は難しい 準備のため早めに担当教員へ連絡が必要
			セキュリティ情報学実験	○	○	○		
	情報通信工学		情報通信工学実験B 1	○		○	○	情報通信工学実験Aの履修状況が良好の場合
			情報通信工学実験B 2	○		○		
	電子情報学		電子情報学実験B 1	○		○	○	
			電子情報学実験B 2	○		○		
	計測・制御システム		メカトロニクス基礎実験A/B	○	半年分まで	○	○	
			マシンデザインB	○	○	○		
先端ロボティクス	メカトロニクス基礎実験A/B	○	半年分まで	○	○			
	マシンデザインB	○	○	○				
III類	機械システム		知能機械工学基礎実験第一/第二	○	半年分まで	○	○	
			マシンデザインB	○	○	○		
	電子工学	実験科目(必修)に類似した科目を留学先で履修し、そのレポートを提出することで本学の実験科目の単位とすることがある。 あるいは、これまでの実験科目の履修状況が良好な場合には、実験科目(必修)を未修得でも、卒業研究着手審査を特例合格とすることがある。	電子工学実験第一	○		○	○	
			電子工学実験第二	○		○		
	物理工学		光工学実験第一	○		○	○	
			光工学実験第二	○		○		
	光工学		物理工学実験第一	○		○	○	
			物理工学実験第二	○		○		
	化学生命工学		化学生命工学実験第一	○		○	○	
			化学生命工学実験第二	○		○		

交換留学に係る特例について

< I 類 >

- ・全プログラムにおいて同一の特例を設ける。

特例の内容は、次のとおり。

3年次後学期終了時点で、実験（必修）以外の卒業研究着手条件を満たしている場合には、卒業研究着手審査を特例合格とする。

加えて、以下の特例1及び2を認める。

※4年次での卒業を目指す場合には、注意事項に従うこと。

【特例1】

3年次後学期の実験科目（必修）に類似した科目を留学先で履修し、そのレポートを提出することで実験の単位とすることを可とする。（交換留学をしながら卒業研究着手条件を満たすことが可能）

ただし、実験科目の置き換えとする留学先での科目については、出発前に教員（学生支援担任及び学域教育委員）と相談すること。

【特例2】

3年次後学期の実験科目（必修）のうち、オンラインで実施可能な一部の実験については、留学先からの履修を認める。

オンライン実施可能な実験に関しては、実験担当の教員に事前に確認すること。

< 注意事項 > 4年次での卒業を目指す場合

4年次前学期も留学期間とする場合には、卒業研究（輪講）の遠隔実施が可能かどうかを（留学先での学修内容の置き換えを含む）、出発前に、配属希望研究室の教員に確認しておくこと。

また、4年次に3年次後学期の実験を履修することは、卒業研究と並行して履修することとなり、非常に負担が大きくなることが予想されるため、十分な力を身につけておくこと。

< II 類 >

全プログラムにおいて下記の特例を設ける。

- ・実験科目（必修）に類似した科目を留学先で履修し、そのレポートを提出することで本学の実験科目の単位とすることがある。

- これまでの実験科目の履修状況が良好な場合には、実験科目（必修）を未修得でも、卒業研究着手審査を特例合格とすることがある。

また、各プログラムにおける特例は、次のとおりとする。

- セキュリティ情報学プログラム

「プログラミング言語実験」は対面でのみ実施可能な講義内容となっており、オンライン受講は不可。「セキュリティ情報学実験」はオンライン受講の受け入れが可能。ただし、準備のために早めに担当教員へ相談すること。

- 情報通信工学プログラム

「情報通信工学実験 A」の履修状況が良好の場合は、「情報通信工学実験 B1」と「情報通信工学実験 B2」についても修得できる見込みがあるものと見なし、卒業研究着手審査を特例合格とする。

- 電子情報学プログラム

卒業研究着手審査基準のうち、「電子情報学実験 B1」並びに「同 B2」の単位を未修得でも卒業研究着手審査を特例合格とする。

- 計測・制御システムプログラム

「メカトロニクス基礎実験 A/B」及び「マシンデザイン B」については、派遣留学により海外に滞在している間は遠隔による受講を可とする。ただし、対応可能な期間は半年までとする。また、スケジュール調整が必要となるため、年度開始前までに、早めに教育委員に相談すること。

- 先端ロボティクスプログラム

「メカトロニクス基礎実験 A/B」及び「マシンデザイン B」については、派遣留学により海外に滞在している間は遠隔による受講を可とする。ただし、対応可能な期間は半年までとする。また、スケジュール調整が必要となるため、年度開始前までに、早めに教育委員に相談すること。

< III類 >

- 機械システムプログラム

「知能機械工学基礎実験第一／第二」及び「マシンデザイン B」については、派遣留学により海外に滞在している間は遠隔による受講を可とする。ただし、対応可能な期間は半年までとする。また、スケジュール調整が必要となるため、年度開始前までに、早めに教育委員に相談すること。

電子工学、光工学、物理工学、化学生命工学各プログラムの実験科目の特例の取り扱いも適用することがある。

- 電子工学、光工学、物理工学、化学生命工学各プログラム

実験科目（必修）に類似した科目を留学先で履修し、そのレポートを提出することで本学の実験科目の単位とすることがある。

あるいは、これまでの実験科目の履修状況が良好な場合には、実験科目（必修）を未修得でも、卒業研究着手審査を特例合格とすることがある。

（Ⅲ類の）いずれの特例の適用においても、教育委員、実験担当教員、および必要な場合には卒業研究指導教員と相談すること。